

キャリアを考える「場」をつくる (4)

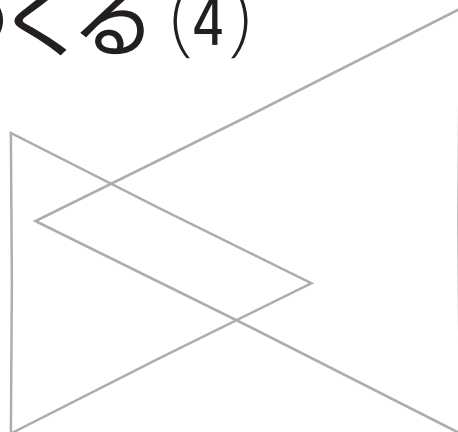
—考え方を学ぶこと—



小野田博之

有限会社キャリアスケープ・コンサルティング 代表

おのだ・ひろゆき●経営人事コンサルタント、キャリア・カウンセラー。大学卒業後、新聞社記者、ソフトウェア会社人事教育部等を経て、現職。内的キャリアを自覚した個人と社会的ミッションを自覚した組織の成長、発展の支援を目的とした経営コンサルティング、組織開発／キャリア開発、キャリアをテーマとしたグループワーク、カウンセリング等を行っている。



キャリアを考える「場」とは、「語り」という外在化のプロセスを通じて、自分の人生を意識化するところであるということをご説明してきました。初回でご紹介したキャリア開発ワークシヨップ・CDW®はその一つですが、参加者に合ったいろいろな形式があるでしょう。そうした場を創出していくうえで考えておきたいことを、質問形式でまとめてみました。

内面に目を向けるだけでいいの？

Q 自分の価値観を探り、それを言葉にすることの重要性はわかるが、それだけでいいのでしょうか？ もっと世の中に目を向ける必要があるのでは？

A 自分の内面に目を向けるだけでは、自己愛の強い人を育てるばかりになってしまうのではないかと懸念はあられるかもしれません。だからこそグループワークの中で語り合い、他者からのフィードバックをもらうことは欠かせません。そこで自分を確認できるからです。

フィードバックを恐れ、自己イメージを守ろうとしてさらに殻に閉じ籠めることにならないような配慮も必要です。本音のやりとりが必要といっても、その場に引つ張り出すのは無謀です。そこが自分の話をしていてもいいかもしれないと思える程度に、小さなながらも安心できる社会となつていなければならない。一方で、過剰に飾り立てたものではない、本質的な自己イメージを語るためには、言語化する時間を確保する必要があります。

グループとしての成熟度を高め、自己理解を深めながら外在化するプロセスの中で、自己愛は自尊心、自己承認に変わり、それが次の一歩を踏み出す力、自信になると思います。

辛い記憶を思い出してしまわない？

Q 価値観を探るうえで過去に目を向けますが、思い出したくないことを思い出させてしまつことになりませんか？

A そうしたことへの配慮は不可欠です。ですから一人のファシリテーターが担当できるグループサイズには自ずと限界があります。また、一人が対応に当たっても場を維持できるように、複数のファシリテーターで進めたいものです。

留意しておきたいのは、キャリアを考えるうえで過去に目を向けるのは、そこに考えるうえでの素材があるからであるということです。私たちの物語は過去の出来事をどう解釈するかという中に現れます。これは過去の体験、経験を克服しなければ先に進めないということではありません。もちろん前の職場で大変な目に遭つて、それがまだに尾を引いていて、現在も影響を及ぼしているということはあるでしょう。しかし、そうしたものを抱えながらでも、これからどうしていくかを考えることはできます。最近注目されているアドラー博士の考えを借りるとすれば、そこに囚われているから先に進めないのではなく、むしろ考えなくてよいようにするために囚われているということもありえます。

とはいえ、心理的な援助ができる人がいると参加者は安心できるでしょう。そうした参加者が多いなら、ファシリテーターに対応できる人を加えるか、専門家にリファーできる体制を整えておきたいものです。

ゴール設定は不可欠でしょうか？

Q キャリアを考えるというとキャリアゴールを設定し、そこに至るためのプランニングをするのだと思いますが、なかなかゴールが決められない人もいます。そもそもこれだけ変化の激しい時代ではゴールを描いてもその通りにはならないのではないのでしょうか？

A 確かに変化の激しい時代です。こうなりたいたいと思ってゴールを設定したとしても、なくなってしまうこともあります。また、今の時点では思いも付かなかったようなゴールが出てくるかもしれません。それこそほんの20年前、キャリア・コンサルタントという職業は日本になかったのですから。

キャリアを考えるからといって、キャリアゴールを設けなければいけないわけではありませんし、具体的になければならぬというわけではありません。ただ、そうしたものがあつたほうが実現に向けたアクションをとりやすいということです。

キャリアを考えるとは「何になりたいか」を考えるのではなく、「どうある時期になつて、例えば転機を迎えて、あるいは人や出来事と出会つて見識が拓がることによって、「ああこういうことだったのだ」と思いつくということは少なくありません。その時期が早ければよい人生だったといえるのだというわけでもありません。人生のさまざまなものがキャリアであるなら、一生を通じてどうありたいかを考え続けることも一つの在り方です。

その意味でキャリア教育とは生涯学習にほかなりません。キャリアを考える「場」はそのプロセスの一部であり、その時々で改めて考えるための方法を学ぶ場といえるでしょう。

それではここで擲筆といたします。お役に立てていれば幸いです。